山田市長就任記者会見

日時　令和３年１１月８日（月）
午前９時半～
場所　市役所３階　大会議室

１　市長あいさつ

この度の越前市長選挙におきまして、市民の皆様の温かいご支援を賜り、新たに市政を担わせていただくことになりました。

歴史ある越前市政を任されることについて、大変重い責任と使命を感じており、身の引き締まる思いでございます。これからの４年間、市民の皆様の期待にお応えできるようしっかりと取り組んでまいります。

これまでも申し上げてきましたが、越前市には豊かな自然、それに育まれた地域、まちなか、千年を超える歴史、伝統的工芸品や先端産業などすばらしい宝物があふれています。

２年半後には新幹線が開業し「越前たけふ」駅が完成します。その先には中部縦貫自動車道の開通など地理的なポジションが飛躍的に高まってくるタイミングです。この機を捉え、市の多くの宝物を磨き上げ、周辺他市町、県、国と協力しながら、市の発展と市民の幸せにつなげていき、市民が誇れるまちにしたいと思います。住んでいる人が越前市に誇りを持つことで、住み続けたい、県外へ出た人も帰ってきたい、県外の人が訪れてみたいというまちにできると思います。

市民の皆様が日々抱えている課題に真剣に向き合い、どうしたら課題解決ができるかという観点で市政を進め、職員と力を合わせて新しい時代の越前市を切り開いていきたいと考えています。

報道機関の皆様におかれましても、お力添え、ご支援いただきますよう、よろしくお願いします。

それでは、本日の発表項目に移らせていただきます。

１つ目は危機管理幹の配置について、２つ目はプロジェクトチームの新設についてです。

２　発表項目

１　危機管理幹の配置について

２　プロジェクトチームの新設について

３　質疑要旨

【質問】人事の発令は週明けということだがいつになるのか。

【回答】１１月１５日付で発令をする。

【質問】危機管理幹は部長級職員か。

【回答】内示の際に発表する。

【質問】プロジェクトチームは既存の部署内となっているが、専任となるのか。また、人数の規模は何人くらいか。

【回答】兼務体制で、人数は４、５人程度になる。

【質問】地域ブランディングプロジェクトチームは秘書広報課内となっているが、市長と近い距離にあるからか。

【回答】広報業務との関連で、まず情報発信機能を強化したいと考えていることから、市長との距離が近いほうが良いと考えている。

【質問】新年度から本格的に組織化すると話していたが、地域ブランディング戦略を作っていくにあたりプロジェクトチームと組織の繋がりやスケジュールはどう考えているか。

【回答】予算に組み込まなければいけない。人事組織にも反映させなければいけない。プロジェクトチームはそのための準備を前倒しするという位置づけである。これをベースに予算の議論をし、組織を考え、人員を配置する。年内にはたたき台をつくり、年明けの予算に反映させ、それを受けて組織人事を行うという考えでいる。

【質問】地域ブランド戦略はいつまでに作るのか。

【回答】少なくとも新幹線の開業を考え、来年夏ごろまでには作りたい。冊子や計画を作ることが目的ではないので、動きながら考え、考えながら実行する。年内にどこまでできるか分からないが、できることからやっていく。

【質問】１期目の目玉施策は新幹線関連になるのか。

【回答】新幹線は一つのきっかけであり、開業効果を最大化することが市や近隣市町、県にとって、最も重要なことだと思う。開業に向けて

のチャンスの中で市の価値を高めていくことが重要である。越前市をまず知ってもらい、興味を持ってもらう。それからさまざまなことが始まっていく。突出したことをやらないと注目はされない。

【質問】ブランディングの具体的な目標はあるか。

【回答】ブランディングは完成形があるものではないので、スタートしたらやり続けるものである。できることからやり、成果が上がったら次のことをやり、重なって前へ進み、やり続けるということに尽きる。

【質問】現在の災害対策の課題は何か。また、危機管理幹を配置することでどう改善されるのか。

【回答】これまでの危機管理体制に問題があったわけではない。一つあると良いものとして、さまざまな情報を市民に知ってもらうということが挙げられる。新型コロナの例で挙げると、県が毎日会見をし、節目で知事も会見をしている。多くの県民に情報を発信し、知らしめていくことで新型コロナ対策に大きな役割を果たしている。市民との関係において情報を発信することが必要だと思う。これから雪の時期になっていくが、情報発信をあらゆる手段で行う人がいることが重要である。

【質問】新駅周辺整備プロジェクトチームについて、従来の進め方とどう変えていくのか。

【回答】従来の流れを大きく変えることはないが、戸田建設が示されたイメージはあくまでも２０４０年の大阪開業のころであり、いま必要なのは２年半後の「越前たけふ」駅開業に向けての話である。いきなり大阪開業を考えるのではなく、５年後のアクションプログラム、１０年後のプラン、２０年後のビジョンとステップを踏んで考えることが必要だと思う。中身については、ショッピングなどの商業、学術研究、人材育成、研究開発、スポーツ関連施設など多様なところに声掛けをし、さまざまなものを引っ張っていきたい。地理的に非常に良いポジションにある宝のような土地だと思っている。そこにどのようなものを引っ張ってくるかを５年間のアクションプログラムにしたいと思う。プロジェクトチームはそ

のプログラムを考えるものとしていきたい。

【質問】戸田建設と協定を結んだときは戸田建設に主体的に進めてもらうイメージだったが、市としても取り組み方を練り直すのか。

【回答】戸田建設が得意な分野もあるため、戸田建設との協力関係は続ける。「越前たけふ」駅エリアだけでなく、市全体で考えると市が主体的に動いた方がうまくいくものもある。また、県と協力した方が良い場合もあるし、民間が自ら手を挙げたらぜひやっていただきたいとも思う。一つの道だけでなく多様な手法を使いながら、現実に物ができれば良いと思う。２年半後に必要な物は何とか間に合わせ、そうでないものは５年くらいの間にできるようにするなど、形を描いていく。いつになっても何ができるか分からない状態では誘客や産業、市民生活にとって良くないので、形を見せていきたい。

【質問】「越前たけふ」駅周辺整備のスケジュール感はどのように考えているか

【回答】さまざまな情報が入ってきているが、相手があることなので意思決定が言えるタイミングが来るかどうかこちらから固有名詞を出す段階ではない。